

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：32413

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02981

研究課題名(和文) 保育者の力量形成におけるマイクロティーチングの研究

研究課題名(英文) Research on Microteaching in the Development of Competence for Childcare Professionals

研究代表者

金子 智栄子 (Kaneko, Chieko)

学校法人文京学院 文京学院大学・人間学部・教授

研究者番号：70257442

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：マイクロティーチング(MT)とは研修者が少人数を短時間保育し、研修監督者(監督者)とVTRなどで確認して修正点を明確にした後、同じ内容の保育を繰り返すという訓練方法である。現職保育者を対象とした研修にMTを導入したところ、保育者のキャリアやMTの種類による効果の様相は異なっていたが、保育者の力量が向上し、保育者効力感が高まってストレスが低減することが示唆された。また、MTの効果は約1ヶ月後の追訴期調査においても確認され、研修効果が保育現場でも波及することが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

金子(2012)は現代的視点から保育者の力量を検討し、MTを軸とした養成から研修の「養成校教員による力量形成援助モデル」を提示して科研費にて出版した。保育科学生に対するMTの有効性は、30年以上の研究成果により明らかにされているが、現職者についてはモデルの提案に止まっていた。これまでに培われたMTの実践方法や効果測定尺度を、研修に適用して力量形成を可視化し理論化することができた。なお、保育者ストレスを低減させることができたことで、社会的な問題となっている保育者の離職を防止する研修方法を提示したと考える。

研究成果の概要(英文)：Microteaching (MT) is a training method where trainees practice caring for a small group of children for a short period, followed by a review with the training supervisor using video recordings or other means to identify areas for improvement. Then, trainees repeat the same childcare session with the suggested modifications. The effects of MT varied depending on the professionals' careers and the type of MT used when it was introduced in training programs for current childcare professional. However, the results suggested that MT enhanced the professionals' competence, increased their sense of self-efficacy as caregivers, and reduced their stress levels. Furthermore, a follow-up survey indicated that MT's effects were maintained approximately one month later, suggesting that training benefits generalized to childcare settings.

研究分野：教育工学関連

キーワード：マイクロティーチング 保育者研修 保育者の力量 保育者効力感 保育者ストレス

1. 研究開始当初の背景

総合的な教育技術の向上を目的として始められたマイクロティーチング (MT) は教師教育と教育実習の画期的な方法 (Allen & Ryan 1969 ; Brown 1975) で、小学校以上の教育においてその有効性は組織的に検証されている。報告者は MT を保育者養成校での実習教育に導入し、MT を軸とした養成から研修の「養成校教員による力量形成援助モデル」(図1)を構成し、現職者を対象にした MT 研究に着手した。

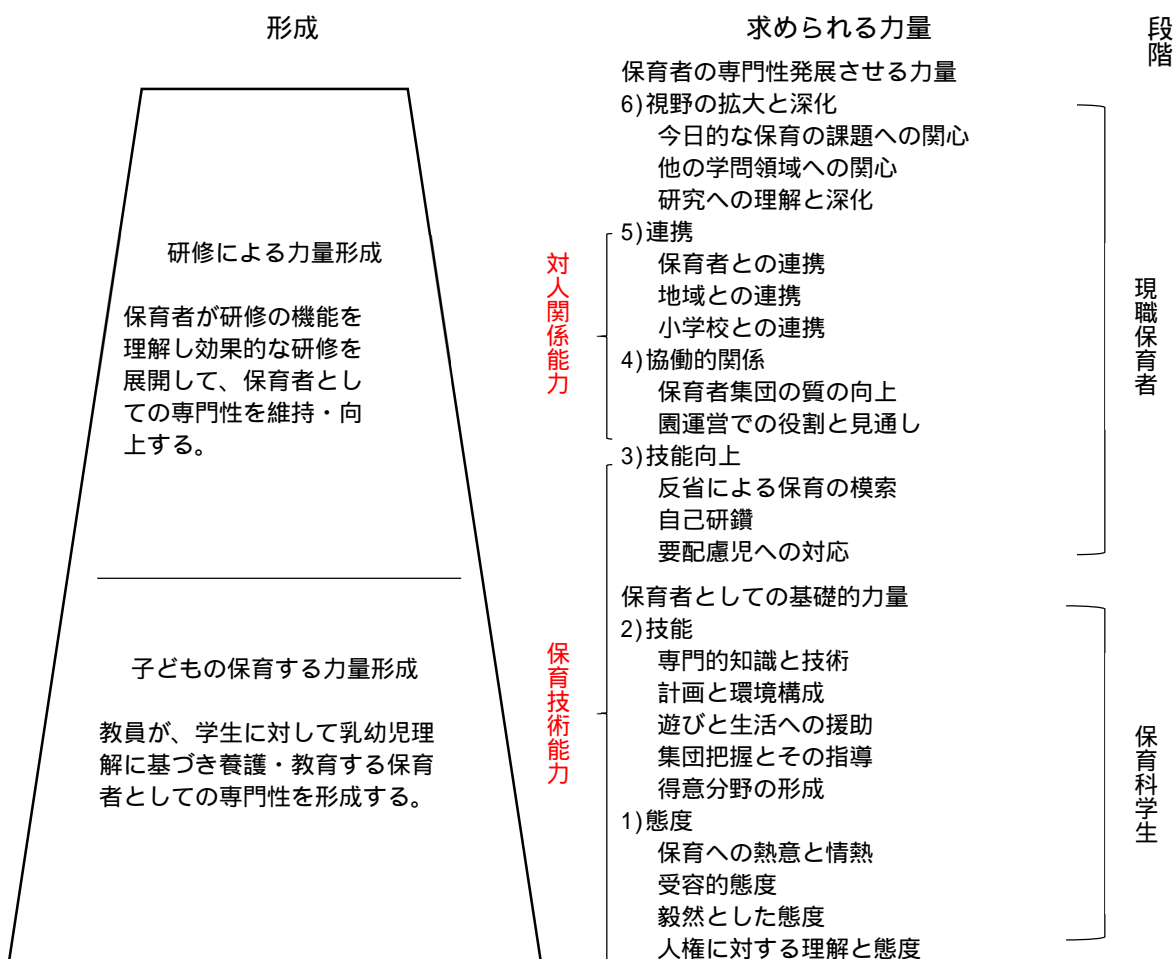


図1 養成校教員による力量形成援助モデルの略図

2. 研究の目的

- (1) MT の種類で有効性は異なるか、保育者のキャリアとはどのように適合するかを検討する。
- (2) MT の繰り返しや役割(保育者役や幼児役)の相違によりどのような効果があるかを検討する。
- (3) MT を用いた研修効果はどのくらい持続するかを検討する。
- (4) MT はどのような力量の形成に有効かを検討する。
- (5) MT の研修効果は保育者効力感を向上させ、保育者のストレスを低減させるかを検討する。

3. 研究の方法

2019年～2021年にかけて、大学構内にて経験年数の異なる現職保育者(新卒者・中堅者・ベテラン・熟達者)を保育者役にして、実習が終了した保育科4年次学生が幼児役となる「簡易型MT」を実施した。保育施設内の園内研修では幼児と対象にする「MT」も実施した。そして、保育実践による研修の有効性を、観察法と質問紙法を用いたマルチメソッドアプローチで検証した。

4. 研究成果：引用文献については、報告書の「5. 主な発表論文等」を参照されたい。

- (1) 「MTの種類で有効性は異なるか、保育者のキャリアとはどのように適合するか」について
絵本の読み聞かせを題材とした MT 研修について、「MTの種類(簡易型 MT・MT)×保育者のキャリア(保育科4年次学生・現職者)」の条件で検討した。「簡易型 MT」は大人が幼児役となる模擬保育を用いる方法で、「MT」とは幼児を対象に保育する方法である。線形混合モデルによる分析の結果、MT 有効性測定尺度においては対象者に主効果があり、保育科学生の方が学習

状態の認識, 学習意欲, 幼児理解, 指導案の書き方, 指導の難しさが現職者よりも高かった。MT 研修実施の事前と事後の 2 時点で測定した力量尺度において, 力量の「技能向上」は, 簡易型 MT・MT ならびに学生・現職者を問わず, 事前から事後にかけて有意な向上が認められ, 方法を問わず両者に力量の向上が認められた(表 1)。ただし, 力量の「技能」は, 簡易型 MT・MT を問わず, 学生で事前から事後にかけて有意な向上が認められた。「連携」と「視野の拡大と深化」は, 簡易型 MT の学生において, 事前から事後にかけて有意な向上が認められた。簡易型 MT では模擬保育を用いており, 観察学習とロールプレイの効果があつたのかもしれない。他方, 現職者は絵本の読み聞かせを日常の保育で行っており, 学生と比べて効果が少なかったと考えられる。さらに, 自由記述の分析において, 保育者役の保育科学生からは MT では幼児行動の予想がつかず緊張するという意見があり, 幼児行動への対応には MT が有効であると考えられた。また簡易型 MT の体験が, その後の MT における幼児行動を予測する際に生かされており, 2 つの異なる実施方法を併用(簡易型 MT・MT)する効果も示唆された。一方, 現職保育者が保育者役になる場合では, 保育者が幼児役となる簡易型 MT と MT とでは効果の差はあまり見られなかった。保育者である幼児役がリアリティの高い演技をしたこともその一因として考えられた。(金子ほか 2023, 2024 参照)

表 1 MT の種類別学生及び保育者における力量形成の事前事後の比較

力量の下位尺度	簡易型 MT				MT			
	学生		保育者		学生		保育者	
	pre	post	pre	post	pre	post	pre	post
態度	3.50	3.88	3.38	3.46	3.71	3.92	3.50	3.33
技能	3.03	3.67	3.03	3.00	3.30	3.60	3.03	2.93
技能向上	3.28	3.67	2.89	3.17	3.50	3.28	3.00	3.06
協働的關係	3.17	3.50	3.50	3.17	3.25	3.20	3.33	3.25
連携	2.33	3.17	2.93	2.60	2.56	2.39	2.87	2.60
視野の拡大と深化	2.44	3.28	2.50	2.67	3.33	3.11	2.67	2.72

赤字：有意な向上を意味する。

(2)「MT の繰り返しや役割(保育者役や幼児役)の相違によりどのような効果があるか」について

MT の繰り返しの効果はすべての研修で現職保育者が認めており, すぐに修正に役立つことなどを理由にしていた。園内研修では現職保育者が幼児役となるが, 経験年数 13 年のベテラン保育者を保育者役に設定して簡易型 MT の研修を実施した(金子ほか 2023)。その効果を観察法と質問紙法を用いた混合研究法により詳細かつ多角的に検証したところ, 模擬保育の行動評定から, 繰り返しにより保育者役の実地指導技術が即座に向上することが確認された。さらに, 参加者(保育者役や幼児役)全員が繰り返しの有効性を認めており, 主な理由は「反省点をすぐに意識して繰り返して実践することで改善点もあり, 有効だった。環境を変化させることで子どもへの視線, 関わり方など具体的に変わっていく様子が体験でき, 子ども一人ひとりに関わることば・気づきへとなつていった。」だった。金子ほか(2020)で, 実践後の検討会での発話をテキスト・マイニングにより分析して効果を可視化したところ, 1 回目の検討会の共起ネットワークではクラスタが相互に繋がりが合っていたが, 2 回目ではクラスタが独立して出現していた。クラスタ 1 は「相互関連的な学びの構造」, クラスタ 2 は「机の配置変更による会話への影響性」と考えられ, 自由記述などで得られた内省を裏付けていると考察できた。また金子ほか(2023)では, 研修の有効性に関する自己評定から, 参加者全員(保育者役と幼児役)の保育技術が向上し, 自己の学習状態を認識して課題を発見し, 幼児理解が高まることが示された。さらに, 自由記述の分析から, 保育者役ではフィードバック, 幼児役では役割演技と観察学習の効果によって, 学習状態の認識, 学習意欲, 幼児理解が向上する可能性が示唆された。特にベテランが陥りやすい指導の情性化の改善が座席の配置変更という形で示され, ベテランを対象としたマイクロティーチングによる園内研修の有効性が確認された。

大学構内で保育科学生が幼児役となり, 経験年数 12 年のベテラン保育者が保育者役となって, 風車制作をテーマに行った簡易型 MT(金子 2021)では, 保育者役は 1 回目の反省を踏まえて, 2 回目の開始にあたっては「時間設定や作業の手順を考えて, 余裕をもって子どもたちの言葉に耳を傾けながら一緒に作りたい」と改善点をあげた。2 回目の反省会では「手順がわかって落ち着いてきた」と回答していた。1 回目の実践の発話について, 共起ネットワークではクラスタが相互に繋がりが合っており, 「難しい」が検出された(図 2)が, 2 回目ではクラスタが独立して出現(図 3)していた。クラスタ 1 は「導入」, クラスタ 2 は「指導手順」, クラスタ 3 は「指導手順」, クラスタ 4 は「指導手順 ~」, クラスタ 5 は「風車で風を探し」と考えられ, 発言内容を裏付けていると考察でき, 「繰り返し」の効果可視化された。

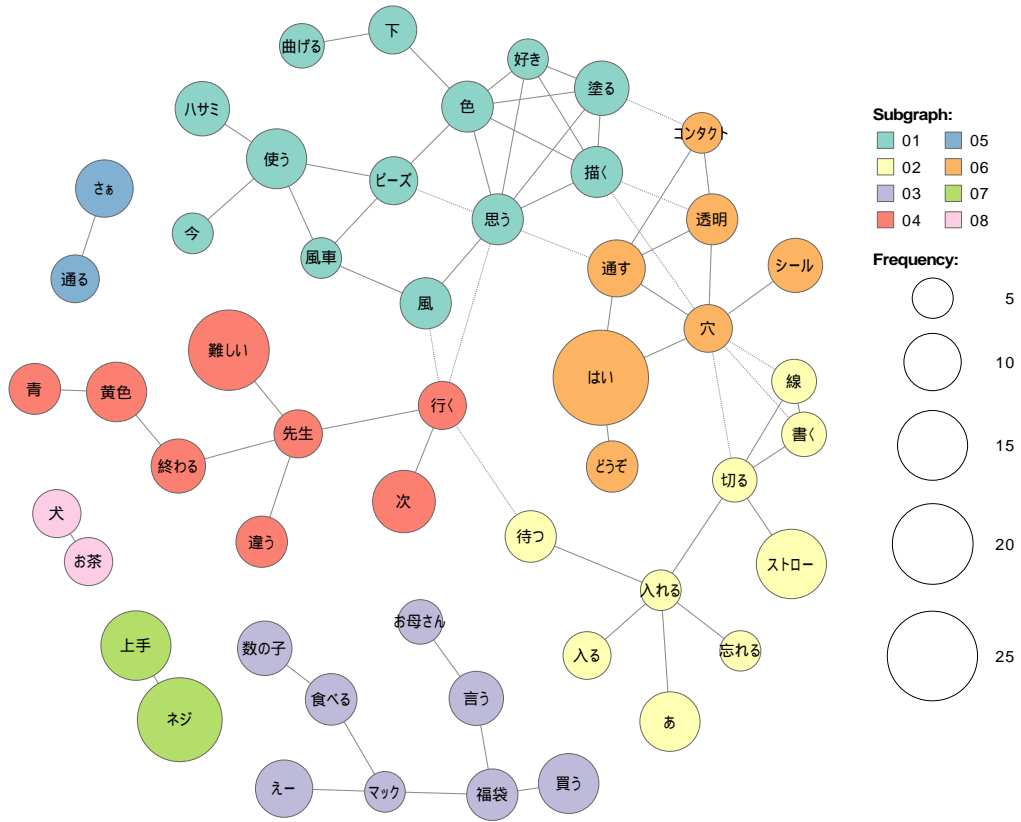


図2 1回目のMTの発話に関する共起ネットワーク

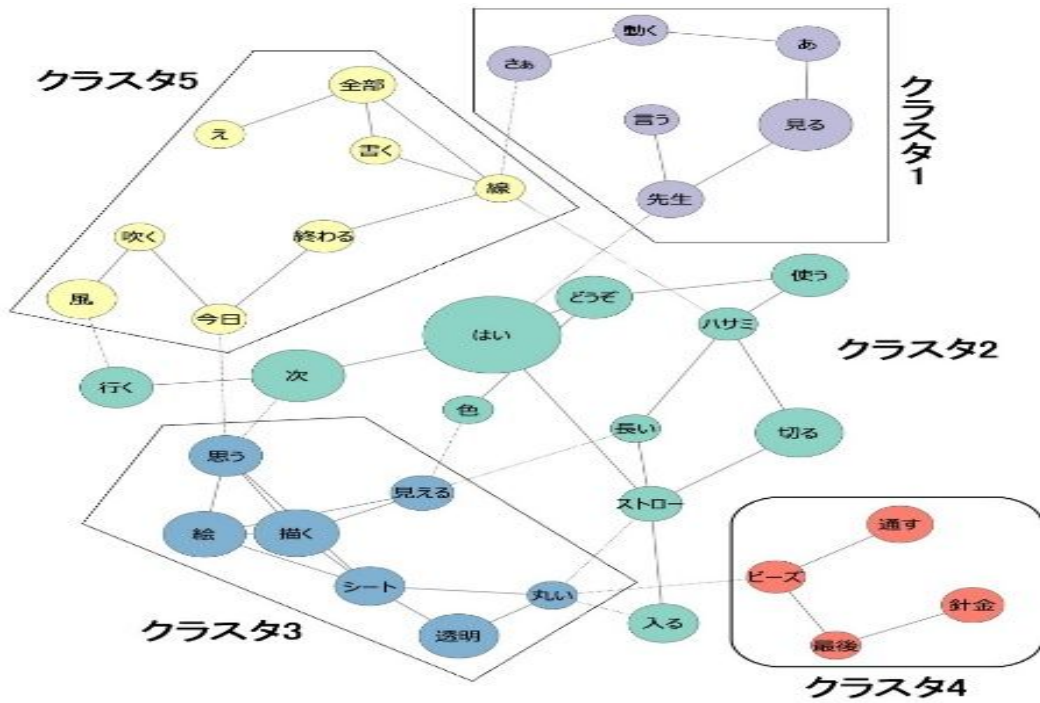


図3 2回目のMTの発話に関する共起ネットワーク

(3) 「MT を用いた研修効果はどのくらい持続するか」について

保育科学生が幼児役となり、大学の教室で実施された簡易型 MT について、研修後 1 ヶ月以降の効果を認識面と行動面に分けてキャリア別に検討した。新卒保育者（金子・安野 2020）、経験年数 7 年の中堅保育者（金子 2023）、経験年数 8 年の中堅者保育者（金子 2022）、経験年数 12 年のベテラン保育者（金子 2024）、経験年数 37 年で保育アドバイザーでもある熟達保育者（金子 2022）において効果が認められた。これらの研究結果から、研修効果は 1 ヶ月後も継続すること、さらに MT 研修は大学の教室にて実践されたものの、その効果は保育現場へも波及していることが示唆された。

(4) 「MT はどのような力量の形成に有効か」について

保育科学生が幼児役となる簡易型 MT の実践において、新卒（金子・安野 2020）と経験年数 7 年の中堅保育者（金子 2023）の研修では、保育者の力量の 6 分類（『態度』『技能』『技能向上』『協働的關係』『連携』『視野の拡大と深化』）20 項目のすべてで向上していた。経験年数 8 年の中堅保育者（金子 2022）、経験年数 12 年のベテラン保育者（金子 2024）は、『態度』『技能』『技能向上』『視野の拡大と深化』の分類に属する力量が向上することが確認された。経験年数 37 年の熟達者（金子 2022）も、『態度』『技能』『技能向上』『協働的關係』『視野の拡大と深化』に属する力量が向上していた。これらの結果から、新卒者から熟達者に至るまで現職保育者の保育技術をより一層高めて、専門的な力量形成を促していく上で、簡易型 MT 研修が有効であることが示された。初期の力量形成のモデルでは『技能』は養成課程で、『技能向上』は現職段階で形成されると考えたが、現職者であっても基礎的な『技能』は重要であり、相補しながらより専門的な技能が向上していくと考える。さらに『協働的關係』や『連携』の力量形成にも有効であることが示唆された。

園内研修として、現職保育者が幼児役となり、経験年数 13 年のベテラン保育者が保育者役になる簡易型 MT を実施した（金子ほか 2023）。研修の 1 ヶ月後の影響については、認識面と行動面の両方とも、模擬保育の参加者全員が有効性の「有」を選択していた。力量は比較的定着する可能性があると考え、有効性の理由に関する自由記述を、保育者の力量に関する 20 項目の観点に基づき、センテンスごとに対応している観点があるか評定した。その結果、「認識面」の観点には、「態度（受容的態度）」、「技能（計画と環境構成）」、「技能（遊びと生活への援助）」、「技能向上（要配慮児への対応）」があった。また、「行動面」は、「態度（受容的態度）」、「技能（計画と環境構成）」、「技能向上（要配慮児への対応）」があった。自由記述で相対的に多かった観点は、「技能（計画と環境構成）」、「技能向上（要配慮児への対応）」であった。以上より、保育者の力量形成という観点では、とりわけ保育者の技能の獲得や向上に MT が有効である可能性が示されたと言える。

(5) 「MT の研修効果は保育者効力感を向上させ、保育者のストレスを低減させるか」について

新卒保育者（金子・安野 2020）は、MT 研修は保育者効力感を向上させ、子どもへの理解や関わりだけでなく、園内での人間関係の形成にも役立つことから、ストレス対処として有効としていた。経験年数 8 年の中堅保育者（金子 2022）は、ストレス者の「知識不足」が MT 研修により対処できると認識しており、MT 研修がコーピングの一助になると認識していた。経験年数 12 年のベテラン保育者（金子 2024）は、保育者効力感尺度の 2 項目「子どもにわかりやすく指導すること」「子どもの能力に応じた課題を出すこと」において有益であるとしたが、主となるストレス者は対人関係や勤務条件であり、MT 研修はコーピングとはなっていなかった。MT は保育技能の習得に重きを置くことから、ストレスコーピングとしてはキャリアの低い保育者の方が実感していると考えられた。

本研究は実践研究という性質から、得られた知見は特定の個人や集団を対象とした単一事例の分析から導かれている。したがって今後も様々な保育者集団を対象に MT 研修を実施し、有効性を更に検証していく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 金子智栄子	4. 巻 25
2. 論文標題 ベテラン保育者のフルーツバスケットをテーマにした実践事例 保育者研修における簡易型マイクロティーチングの有効性	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 文京学院大学人間学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 109-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金子智栄子・金子智昭・植草一世・清水優菜	4. 巻 47(1)
2. 論文標題 ベテラン保育者研修におけるマイクロティーチングの実践事例 - 混合研究法による園内研修の有効性の検討 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本教育工学論文誌	6. 最初と最後の頁 63-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15077/jjet.46045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金子智栄子	4. 巻 24
2. 論文標題 中堅保育者のジグソーパズル製作をテーマにした実践事例： 保育者研修における簡易型マイクロティーチングの有効性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文京学院大学人間学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 109-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金子智栄子	4. 巻 23
2. 論文標題 中堅保育者の風船遊びをテーマにした実践事例 保育者研修における簡易型マイクロティーチングの有効性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文京学院大学人間学部紀要	6. 最初と最後の頁 81-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金子智米子・安野隆史	4. 巻 20
2. 論文標題 保育者研修におけるマイクロティーチングの有効性 - 新任保育者の認識に焦点を当てて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文京学院大学人間学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 105-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計15件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 金子智米子・金子智昭・金子功一・清水優菜
2. 発表標題 絵本の読み聞かせにおけるマイクロティーチングの効果
3. 学会等名 日本教育心理学会第66回総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 金子智米子・金子智昭・植草一世・金子功一
2. 発表標題 絵本の読み聞かせにおけるマイクロティーチングの効果
3. 学会等名 日本保育学会第77回大会：発表年2024年
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 金子智米子・金子智昭・植草一世・金子功一
2. 発表標題 絵本の読み聞かせにおけるマイクロティーチングの効果
3. 学会等名 日本保育学会第76回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 保育者の幼児との相互交渉における熟達化 マイクロティーチングにおける風車製作での相違についてー
2. 発表標題 金子智栄子・金子智昭・清水優菜
3. 学会等名 日本教育心理学会第65回総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金子智栄子
2. 発表標題 ベテラン保育者のフルーツバスケットをテーマにした実践事例： 保育者研修における簡易型マイクロティーチングの有効性
3. 学会等名 日本保育学会第75回総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金子智栄子
2. 発表標題 熟達保育者を対象にした簡易型マイクロティーチングの効果 経験年数37年の保育アドバイザーにおける風車制作の実践事例
3. 学会等名 日本教育心理学会第64回総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金子智栄子
2. 発表標題 現職保育者研修でのマイクロティーチングの効果 ーベテラン保育者における有効性ー
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金子智栄子・金子智昭・植草一世・清水優菜
2. 発表標題 園内研修におけるマイクロティーチングの研究 ベテランの保育実践における行動分析
3. 学会等名 日本教育心理学会第63回総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金子智栄子・植草一世・清水優菜
2. 発表標題 園内研修におけるマイクロティーチングの研究 ベテランによる保育実践の繰り返しの効果
3. 学会等名 日本教育心理学会第62回総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金子智栄子
2. 発表標題 ロールプレイを導入したマイクロティーチングの研究－新任保育者研修で幼児役になった保育科学生の学び－
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------